

公明党

せのう 孝夫 市政報告 臨時号



声を かたち に 夢を くらし に

臨時号では、9 月議会後から 12 月議会終了期間における議会行事や取り組み等を報告します。

10 月 5 日、私が所属する建設経済常任委員会における長野県小諸市の『行政視察』の報告をはじめとしまして、『第 9 回 令和 5 年 議会報告会』の模様、『物価高騰対策と経済再生に向けた提言』書の市長への提出、市庁舎玄関ロビーに『館山市議会 情報掲示板』設置のお知らせ、館山市で令和 6 年に 4 回実施する公明党主催による『無料法律相談』のお知らせ、地域要望への対応等々を掲載させていただきます。

建設経済委員会 行政視察報告

建設経済常任委員会では、10 月 3 日から 5 日にかけて、長野県の 4 市に視察に行き参りました。上田市では、平成 28 (2016) 年の NHK 大河ドラマ「真田丸」の舞台として、上映されるに至った経緯等を伺いました。本市でも「里見氏を大河ドラマに」と、誘致への願いを込めて推進しており、その参考になればとの思いがありました。

飯山市では「花の駅千曲川」という指定管理者制度で運営する道の駅を視察しました。広大な山と川に囲まれ、四季とともに農産物も景色も、その美しい姿を変えていきます。本市でも、道の駅

「グリーンファーム館山」が明年 2 月に開業予定となっておりますので、コンセプトや経営方針など多角的な視点を養うことができた視察となりました。

須坂市では、農業者の高齢化対策として「新規就農支援」制度を学びました。須坂市の強みは、「フルーツ王国」として多品種の果樹が栽培され、それらの品質・生産量共に優れており、ふるさと納税の返礼品としても人気が高く、ブドウだけでも年間 30 億円を超えます。全国に広く知れ渡っているブランドでもあることから、新規就農者の受け入れや育成が、他市の農産物を扱う場合と大きく異なり、有利に支援事業が展開されているという印象を持ちました。

最後は小諸市の「野生鳥獣商品化施設」での、ニホンジカを原料にペットフードを生産して、大きく成功している事例を学ばせていただきました。

以下、野生鳥獣商品化事業に関する視察報告を記します。

長野県小諸市『野生鳥獣商品化施設』

建設経済委員会 行政視察報告書

令和 5 年 10 月 5 日

視察概要

小諸市野生鳥獣商品化事業（以下、本事業と表記）の位置づけ

本事業は、営農者支援、捕獲従事者支援、許可捕獲事業、野生鳥獣商品化事業の 4 つのコンセプトで構成されており、商品化事業は野生鳥獣対策の一部という位置づけであった。

小諸市の野生鳥獣対策は、有害鳥獣駆除は猟友会を主体者として業務委託していたが、平成 28 年からそれを廃止し、行政主体の実施隊（特別職非常勤公務員）による捕獲体制に変更した。理由は、小諸市の農業を守る持続可能な鳥獣対策の実現を図るためである。

捕獲体制を実施隊に変更したことで、小諸市のニホンジカの年間捕獲数は 2～4 倍と急増し、農業被害額は 2 分の 1 から 3 分の 1 へと激減した。これらの実績が認められ、『平成 28 年度 鳥獣対策優良活動表彰（被害防止部門）』において最高賞である農林水産大臣賞を受賞した。

◎ニホンジカの駆除主体と年間捕獲頭数・被害額（千円）の対照表

猟友会：H23（53 頭 1,141） H24（71 頭 1,955） H25（53 頭 1,324）

実施隊：R1（216 頭 435） R2（234 頭 573） R3（275 頭 543）

しかし、其の反動で捕獲報償費（1 頭・18,000 円）と個体処分費（45kg×270 円）が増大し、市の鳥獣対策費用が増加するという弊害が生じた（H28 年・捕獲報償費：311 頭×18,000 円＝560 万円。個体処分費：45kg×270 円×311 頭＝378 万円）。

鳥獣対策費が高騰すると、持続可能な鳥獣対策ができなくなる恐れがある。本事業では、捕獲等に要する経費は削減できないため、捕獲された鹿を最大限に活用し、商品化して其の収益によるコスト削減をするかが求められた。

以下に、本事業の詳細を記す。

運営体制

事業運営開始にかかった費用は約 6,000 万円で、現施設は、使われなくなった長野県の犬等管理所の土地・建物を小諸市単独予算 1,000 万円で買い上げたものである。その他、地方創生推進型交付金 5,000 万円を活用し、建物の建設・改修に 2,500 万円と、備品（保冷 2 トントラック・金属検出器・放射線量検出器・大型冷蔵庫・急速冷凍庫・大型低温乾燥機等々）の購入に 2,500 万円を投資した。

駆除個体を商品化し、処理費の軽減を図るためには、個体の高い利用率が求められる。そこで、ジビエ食肉用ではなく小諸市産鹿肉ペットフード事業（小諸市野生鳥獣商品化事業）として、平成 28 年度から開始した。

信頼され高価な商品とするためのペットフードとして、付加価値をつける取り組みを行った。小諸市産鹿肉ペットフードの売りは KP 商品（小諸プレミアム）、つまり信頼される商品である。

◎KP 商品に必要な具体的取り組み。

- ① 衛生管理の行き届いた加工施設
- ② 科学的根拠に基づいた鹿肉ペットフードの開発
- ③ 商品が作られた背景の PR 等

個体搬入と商品化、販路、販売等

◎施設に搬入された鹿の頭数と事業損益の推移

利用頭数	事業売上	事業支出	事業損益
H28： 276 頭	1,335,084	4,954,600	-3,619,516

H29：	598 頭	7,288,204	9,812,906	-2,524,702
H30：	902 頭	15,611,611	14,074,798	-1,536,813
R1：	1,519 頭	23,721,468	23,873,458	-151,990
R2：	1,427 頭	35,413,311	28,211,940	-7,201,371
R3：	1,597 頭	36,601,917	36,274,826	-327,091
R4：	1,369 頭	37,182,285	34,426,514	-2,755,771
R5：	1,231 頭（9 月末時点）	—	—	—

※ 頭数が増えているのに事業損益のプラス額が少ない年度は、設備投資を行ない事業支出が増えた関係によるとの説明があった。

◎搬入される自治体の増加

H28：小諸市	H29：軽井沢町	H30：佐久市
R1：上田市	R3：立科町・佐久穂町	

◎解体の流れ

1. 捕獲者から搬入の連絡が施設に入る
2. 施設で搬入記録（捕獲日・団体・自治体・場所・種名・体重・個体識別番号・性別・確認者）スマートフォンで撮影すると、自動的に市役所に画像データが届く
3. 鹿を洗浄し足先を除去
4. 懸吊ハンガーにかけ、頭部と内臓を摘出

5. 皮を剥ぎ、枝肉にする
6. 次亜塩素酸水をかけ洗浄
7. 部位ごとに分ける
8. 脱骨して肉だけにする
9. 個体ごとに袋に入れて一旦冷凍保存
10. 放射線量検査機にて測定（100Bq/Kg 以上の場合は全て破棄）
11. 金属検出器にて異物検査

検査をクリアした肉は「解体肉」として次の工程へ

解体肉は筋膜や脂肪を取り除いて「精肉」にする

◎冷凍肉商品

・カット肉 ・ミンチ肉 ・心臓 ・肝臓 ・骨など

大半が、ペットフードメーカーが原材料として購入

◎KP 加工商品

ジャーキー4 種類

・鹿肉 ・アキレス腱 ・気道 ・首筋の腱

ウエットフード（製造は外部委託）

・肉とレバーのみ ・肉と寒天

ドライフード（製造は外部委託）

- ・ 鹿肉、野菜、魚肉を使用

鹿肉は、ペットフードの原料に適していると言われており、麻布大学獣医学部ではアレルギーに関する臨床試験、安全性調査、嗜好性調査など、小諸市産鹿肉ペットフードを用いた研究が行われている。

◎売買契約：小諸市（市長）と業者間で契約

- ・ 令和 5 年度は 9 月時点で 154 の事業者と契約締結

◎受注：小諸市農林課にて受注

- ・ 冷凍商品は施設から出荷
- ・ KP 商品は小諸市役所から出荷

◎請求：

小諸市が販売数を取りまとめ、月初めに請求書を発行、市に振り込んでもらう。

所感

小諸市が直営する本事業は、平成 27 年に国に予算要望し、28 年度から始まったものであるが、収支の採算性が認められれば、指定管理制度など民間事業への移行も考えており、その見通しも立っているようである。

説明では、全国に 900 を超えるジビエ事業があるが、その 9 割は赤字で厳しい経営状況にあると

いうことであった。そういう中で、黒字化させている本事業には、成功へのこだわりと秘訣があると言える。

第一には、ジビエ肉を販売する方向性である。ジビエ肉は一般的に捕獲状態や個体差が大きいなどにより、品質の均一性が難しいとされる。また、25 トンもの肉を売り捌くのも困難であり、さらには良質な肉にも限りがある。そういうことから食肉用とはせず、多くの部位を加工・販売に適用でき、無駄なく有効活用するためにペットフードとした判断は正解だったと考える。

ジビエを扱うにあたって重要な条件は、施設整備と売り先の確保、そして安定した捕獲の3つであると言われた。それぞれについて考察したい。

施設は、保健所と共同で設計し、食肉処理業と食肉販売業の認定を受けている。徹底した衛生管理と高品質へのこだわりも重要である。資源を最大限活用するため、1頭から2つの商品しかできないアキレス腱を乾燥させた貴重な商品もある。小型犬がかじることで歯垢が落ち、口臭を予防する効果があるとされ食べても問題ないという。鹿の気道を乾燥させた商品もあり、どちらも間食用である。

小諸プレミアム（KP 商品）ペットフードは、酸化防止剤等を一切使用せず、安全な原材料を衛生管理の行き届いた施設で、大学との共同研究によって製造されており『令和元年度 鳥獣対策優良活動表彰（ジビエ利活用部門）』でも農林水産大臣賞を受賞した。

売り手について、当初は職員自ら犬猫病院への売り込みまで行うなど販売先の開拓には大変苦労されたそうだが、現在では上述した154の事業者と契約を締結するに至っている。「品質が良けれ

ば先方から求められる」と語っておられたが、その見本となるような商品である。また、ふるさと納税の返礼品としても 1,500 万円の実績を誇る。

限られた資源の有効活用も重要であり、生皮を販売するなど無駄を抑えている。鹿革は、1 頭で 4～5 kg あり、安価で加工業者に提供しているが、それでも年間 30 万円ほどの収益に繋がっているという。皮も残渣とすれば焼却処分となり、その処分費用も発生するので、極力経費をかけないための努力を行っている。加工された鹿革は、市職員の名刺入れやオーダーメイドのバッグ、名札カバー等にも使用されており、柔らかくて丈夫だと好評であった。

安定した捕獲量に関しては、安定供給を求めるビジネスパーソンとして猟友会は、個性の面と後継育成等の面から、あまり向かないという感想を漏らしておられた。行政主体の実施隊の設置と、近隣市町からの搬入も推進したことにより、安定した供給体制が構築されるようになったが、そうするに至った経緯と実績を含め、説明は共感できるものであった。

年間の解体処理能力は、1,800 頭くらいが限界と言われたが、本年度（令和 5 年）はそれに迫る勢いであると話されていた。

次に、捕獲個体の品質保持も重要である。罠にかかった鹿は、鉄砲による止め刺しは行わず、電気ショック等で行う。持ち込みは当日 13 時までと決められ、加工される鹿は捕獲日、捕獲者、解体日を全て記録し、新鮮で良好な肉質の保持を図っている。

本事業は、捕獲事業の推進によって農産物被害を抑える営農者支援と、若手の捕獲従事者を支援することで持続可能な人材の育成、そしてそれらの受け皿となる野生鳥獣商品化事業の安定経営に

よって、4つのコンセプトが見事に融和し機能されている取り組みであると、敬意を持って感じている。

当初、商品化事業は野生鳥獣対策の一部という位置づけであったと言われたが、本事業が担っている貢献がなければ、究極の目的である持続可能な野生鳥獣保護管理事業とは、到底なり得ないものと感じる次第である。

併せて、現在本事業は行政が行なっているが、安定経営の目処がたてば民間に移行させていきたいとも話された。条件については純利益で1,000万円程度が目安になるとの見解であったが『黒字になる事業は民間委託へ』という流れは理想ではないだろうか。

本市の、ジビエ施設の運営に当たっても、販路の拡大や困り事等について、行政も営業や相談など出来る限りの応援体制を敷き、共に安定経営から黒字経営へと、事業の成功を目指していただきたい。理由は上述した通り、本事業が及ぼす4つのコンセプトの成就における効果が絶大であるからである。

結びに、本事業をご説明いただいた産業振興部 農林課 林務係 野生鳥獣専門員主査 竹下毅様を始め、農林課長 佐藤工様、係長 渡辺義則様、市議会議長 丸山正昭様、小諸市議会事務局の皆様方に心より御礼申し上げ、視察報告とする。

以上

館山市議会 議会報告会を開催



令和 5 年 10 月 28 日（土）、館山市役所 本館 2 階会議室
にて午前の部 10：00～11：30、午後の部 14：00～15：
30 の 2 回にわたり、2 班体制で議会報告会を開催しました。

2019 年 9 月の台風被害対応によって 10 月に予定していた対面での議会報告会は中止となり、翌 20 年からはコロナ禍により参加型の会合ができませんでしたので、5 年ぶりとなる市民の皆様との開催となりました。又、1 期と 2 期議員にとりましては、初めての対面式での議会報告会であ

り、さわやかな緊張感の中、有意義な意見交換ができたと感じています。

参加者数は午前 32 名、午後 25 名でした。多くの皆様方から様々なご意見をいただきましたが、印象的な内容としては「話しやすい雰囲気にしてほしい」、「意見交換会のテーマ（公共施設の再編）についても、概要を事前に HP 等で掲載しておいてほしい」などの意見が寄せられました。

また、アンケートのご協力もいただきましたが、特に注目した内容としては「参加者の居住地域が開催場所である市役所周辺にお住まいの方が多かったこと」「女性と、未成年を含め20代から50代の若い年齢層の参加者が少なかったこと」などの課題が浮かび上がりました。

しっかりと改善点等を検討して、次回へ活かせるよう取り組んでまいりたいと思います。

館山市議会 情報掲示板を庁舎ロビーに設置

令和5年11月29日、市役所1階ロビーに市議会掲示板を設置しました。

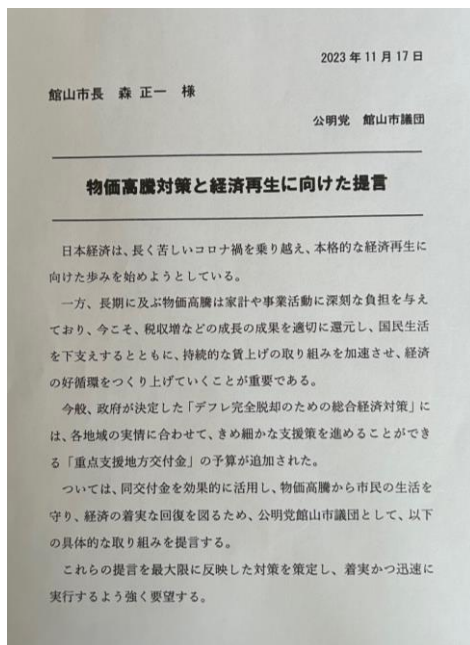
議員の紹介や議会通信、議会活動の紹介、定例会の日程等を紹介しています。

本年 4 月に執行された市議会議員選挙をはじめとして、館山市での各種選挙においては低投票率で推移しています。又、地方議会においては議員の成り手不足等の課題も表面化しつつあります。市民の皆様に、これまで以上に関心を持っていただける「市民に開かれた信頼される議会」を目指して、努力してまいります。

『物価高騰対策と経済再生に向けた提言』を提出

長引く物価高を乗り越えるため、政府は 11 月 2 日に新たな総合経済対策を決定しました。これには、公明党が提案した“3 つの還元策（①「定額減税と給付」で国民の可処分所得を下支え ②中小企業支援 ③「年収の壁」解消目指し）”など、数多くの対策が盛り込まれました。

公明党館山市議団としては、政府の総合経済対策において、低所得世帯支援枠（1.1 兆円）に 1 世帯 7 万円を追加することが盛り込まれた事を受け、年内の予算化に向け迅速に対応する旨を『物価高騰対策と経済再生に向けた提言』にまとめ 11 月 17 日、森 正一市長・石井博臣副市長同席のもと提出しました。これは、物価高騰から市民の生活を守り、経済の着実な回復を図るため、速やかに実行するよう市に求めたものです。



無料法律相談（主催：公明党千葉県本部）

令和 6 年 （団体名：菜の花会） 館山市の開催日程

1 月 16 日、4 月 16 日、7 月 16 日、10 月 15 日、すべて火曜日。

開催時間 13 時から 17 時まで 会場は都度決定

1 月 16 日(火)

会場：菜の花ホール 2 階 第 3 集会室

お気軽にご利用ください。 お一人（1 組）30 分単位。

事前予約が必要です。ご連絡をお願いします。

瀬能 TEL（携帯） 090-7276-0903

※ 令和 6 年の会場については、2 か月以上先の予約ができないため、予約可能となった時点でお知らせします。

要望対応

グレーチングの段差解消



10月18日、長須賀161番地先付近の側溝にかかるグレーチングに生じた5 cmほどの段差により、転倒する事案を地域にお住まいの方から受けまし

た。

建設課に要望したところ、即刻に対応していただき感謝します。

西岬地区へ移動スーパー運行

11月30日より、毎週木曜日に西岬（小沼～伊戸～洲崎～波佐間～坂田～浜田等9箇所）地区へ、ヤックス移動販売スーパーらくちん便が運行されることとなりました。

一パー等を担当



買い物難民解消に向けた地域づくりは、今後ますます重要になってまいります。